

飯重地区における実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
佐倉市	飯重地区	2022年7月23日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	52.9ha
②アンケート調査等に回答した地区内の耕作者の耕作面積の合計	39.4ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	14.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	1.7ha
ii うち 後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.1ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	52.9ha

※別添;地図

2 対象地区の課題

- ・飯重地区のほ場は、昭和30年代～40年代にかけて基盤整備を行い、約50年を経過している。
- ・農業者の高齢化や後継者不足、大型機械化の困難な排水不良田により、多くの耕作放棄地が発生している。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・営農の継続性を確保するため、令和6年3月頃に集落営農組織(構成員15名程度を予定)を立ち上げて、農地面積の約7割を担い、残りの3割は地元農業者が担う。

(参考)中心経営体

No.	属性 (※)	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
			経営作物	経営面積	経営作物	経営面積	農業を営む範囲
1	認	米本 精一	水稻	1ha			
2	認	立崎伸行	花き	3.8ha	花き	3.8ha	飯重地区
3	認農法	(有)石井園芸	花き	1ha	花き	1ha	飯重地区
4	認	勝山 進	水稻	1.4ha			
5	集	飯重集落営農組織(仮称)			水稻、園芸作物	48.1ha	飯重地区
計				7.2ha		52.9ha	

(※)認農:個人の認定農業者、認農法:法人の認定農業者、認就:認定新規就農者、集:法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農、到達:基本構想水準到達者

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意的記載事項)

○基盤整備への取組方針

- ・生産性の向上や農地集積・集約を図るため、農地の大区画化(1ha)・汎用化(排水路や暗渠の整備により水はけを良くすること)等の基盤整備(令和7年度～農業競争力強化農地整備事業)を行う。

○農地中間管理機構の活用方針

- ・将来の農地の集約化を図るため、出し手、受け手ともに、農地中間管理機構を通じた農地の貸し借りを行う。
- ・貸付けの意向が確認された農地は、全筆数732筆のうち488筆(約67%)、全面積52.9haのうち40.5ha(約76.5%)となっている。

○高収益作物の導入方針

- ・集落営農組織が、米の土地利用型作物以外に、収益性の高い園芸作物の生産を行う。